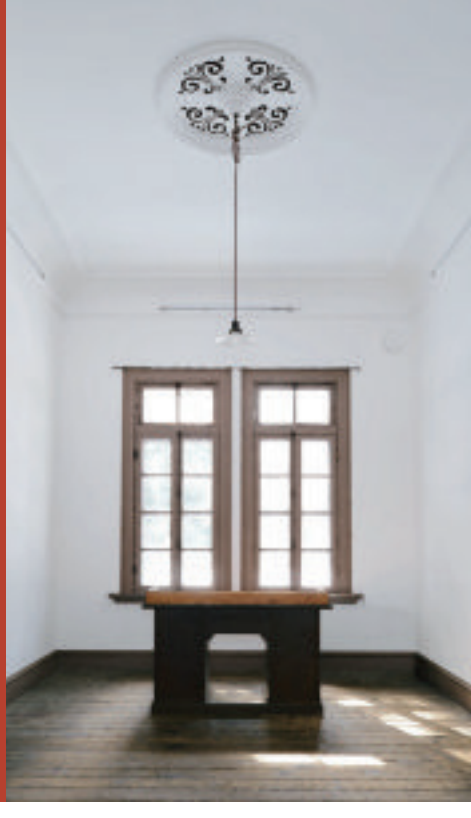
日本語

歴史的資産
HISTORICAL PROPERTY GUIDE MAP
ガイドマップ



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

お願い

北海道大学の美しさを、みんなで守ります。

- ■樹木の落枝や倒壊に注意しましょう。
- ■観光目的のお車の入構は出来ません。
- ■火気の使用はやめましょう。
- ■構内は禁煙です。
- ■野鳥などへの餌やりや植物の採取はやめましょう。
- ■ごみは必ず持ち帰りましょう。

大学は教育と研究の場です。構内では静かにしましょう。

北大フロンティア基金

本基金は、教育・研究の支援から本ガイドマップに掲載の歴史的資産を保存・活用するための支援など、様々な分野に対する支援についてご協力をお願いしています。
（右のQRコードをスキャンしていただくと、「クレジット」による寄附手続きの画面が表示されます。）
基金の詳細は、こちらから
https://www.hokudai.ac.jp/fund/

※表紙の写真は、⑨博物館事務所の一室です。（内部非公開）

歴史的資産の公開情報（※）

【一般公開している施設等】

⑤総合博物館
入場無料
休館日（月曜日、12月28日～1月4日）

●植物園
⑧博物館本館
⑪宮部金吾記念館
植物園の夏期開園時に公開、入園料必要

●第二農場
⑳産室追込所及耕馬舎（モデルバーン）
㉒穀物庫（コーンバーン）
㉓牧牛舎
入場無料、冬期間は内部非公開

●埋蔵文化財調査センター
入場無料、土日・祝日休館

※なお、公開等に関する詳細情報は、各施設のパンフレット若しくは本学HPでご確認ください。

北海道大学施設部
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL 011-716-2111（代表）
http://www.facility.hokudai.ac.jp/

2016年3月 初版　2022年8月 第5版第1刷

北海道大学の歴史的資産を保存・活用するための

9のキーワード

この9のキーワードは、2015年6月13日に開催された「北海道大学歴史的資産保存活用シンポジウム」参加者の言葉をヒントに作成したものです。

知ろう！

キャンパスを歩くと、歴史的な建造物・樹木・景観に触れることができます。博物館には、多数の学術標本や資料が展示されています。歴史的資産の保存・活用は、これらの歴史的資産を知ることから始まります。

作ろう！

歴史的資産は、多くの人の手によって、長い時間をかけて作られてきた貴重な財産です。ただ保存するだけではなく、これからも北大に関わる人々によって作り続けるべきものです。

開こう！

これからの歴史的資産の保存と活用には、北大と地域が一緒に考え、行動することが必要です。これによって、歴史的資産は、札幌や北海道の未来を開く財産となりえます。

守ろう！

札幌の原風景を留める農場は、『200万人都市の中の農業空間』です。また、北大のもつ歴史的建造物・埋蔵文化財・博物館所蔵の動産は貴重なものです。これからも、このような価値ある歴史的資産を守り続けなくてはいけません。

膨らませよう！

北大は、2026年に150周年を迎えます。キャンパスに刻まれた様々なストーリーを踏まえ、未来に向けたイメージを創造的に膨らませることが、歴史的資産の魅力的な活用につながります。

高めよう！

歴史的資産は、北大だけではなく地域に、現在だけではなく未来に貢献できるものです。そのような意識で有効活用することによって、その価値はさらに高まります。

継ごう！

歴史的資産は、ただ鑑賞するためのものではありません。大切に使い続ける発想も必要です。そうすることで、歴史的資産を、良好な状態で次の世代に引き継ぐことが可能になります。

試そう！

長い歴史を通じて、キャンパスでは様々な試行錯誤が繰り返されてきました。これからも、キャンパスは新しく何かを試す場であり続け、その積み重ねが北大と地域の新たな歴史的資産となっていきます。

サステイナブルに！

北大は、サステイナブルなキャンパスづくりに取り組んでいます。歴史的資産を、様々な建物・空間・景観と共生させ、北大の学生・研究者・来訪者・地域住民にとって、身近で文化性・創造性を高める場をつくることは、そのアプローチのひとつです。

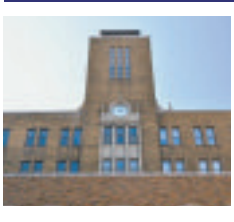
北海道大学 歴史的資産ガイド

国指定重要文化財　国の登録有形文化財　学内歴史的建造物

❶ 古河講堂 木造2階建 1909年

1907年の改組に伴う施設拡充で林学教室として建設。瀟洒な洋風建築ながら「林」の文字をモチーフにした玄関の欄間等に設計者の遊び心も窺える。正面中央の銘板が古河家の寄贈であることを伝える。

❷ 農学部本館 RC造4階建 1935年（第1期）



時計塔が聳える堂々たる2代目本館。設計案では装飾的な尖塔を頂いていたが、時代の影響か落ち着いた意匠となった。1936年の陸軍特別大演習で昭和天皇が滞在。両翼の建設は戦後で、全体の配置は「北」になるような計画であった。

❸ 旧図書館 木造平家建 1902年

現附属図書館完成まで用いられた中央図書館で、当初は入学式や卒業式等にも用いられた。元は瓦屋根で玄関部は戦後に移設したもの。後背には煉瓦造の書庫（1923年）もある。

❹ 旧昆虫学及養蚕学教室 木造平家建 1901年

札幌農学校は1898年から5年計画で現キャンパスを建設した。この建築は最初期の校舎の一つで現存最古。当初は瓦屋根であった。後背には石造の標本室（1927年）もある。

❺ 総合博物館 RC造3階建 1929年

理学部設置の際に建設した旧本館で当時の札幌では数少ない大規模RC造建築。連続アーチ、素焼の装飾、6種のスクラッチタイル、中央階段のアインシュタインドーム等、見所が多い。

❻ 守衛室・南門 木造平家建・煉瓦造 1904年

守衛室は元々正門から100m程の場所に現在の半分程の大きさで建設された。白壁と緑の屋根が農学校時代の特徴を伝える。南門は元の正門で赤煉瓦と硬石を重ねた意匠が特徴。

❼ 事務局本館 RC造3階建 1937年（第2期・東棟）

専門科進学前の教育を行う2代目予科教室として建設された。時代を反映して装飾を極力抑えた意匠であるが、当時の学内新聞は「予科にはモッタイナイ」と紹介する立派な建物だった。

RC造＝鉄筋コンクリート造

植物園

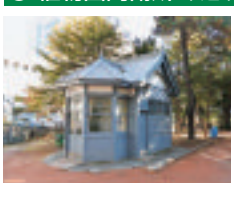
❽ 博物館本館 木造2階建 1882年

開拓使の博物場として建設され、日本で現役最古の博物館建築。左右対称の力強い形態と繊細な細部意匠が印象的。当初は柿葺屋根、素木壁の建築。内外の星標章が開拓使の建築であることを伝える。

❾ 博物館事務所 木造平家建 1901年

博物館管理のために建設された事務所で、設計者は旧昆虫学及養蚕学教室と同じ。窓は、上げ下げ窓と開き窓の2重構成で寒冷地への配慮が見られるが、屋根は北海道では珍しい瓦葺。煉瓦の基礎と鋳鉄の換気口も特徴。

❿ 植物園門衛所 木造平家建 1911年



1911年に入園料の徴収を開始したことを機に門と共に建設された。半八角形でガラス張の見張所、竪板の腰壁、その上の下見板、軒下の漆喰と襷掛けの桟等、小ぶりながら手の込んだ意匠が目をひく。

⓫ 宮部金吾記念館 木造2階建 1901年

札幌農学校動植物学教室として建設され、農学部本館の南にあった。1942年に東半分を移築して園長室等に使用した。その後、北半分を取壊し、2期生で初代園長・宮部金吾の遺品等を展示している。

⓬ バチェラー記念館 木造2階建 1898年

英国聖公会司祭でアイヌ研究に取組んだJ・バチェラーの旧宅で北3西7から移築した。玄関や出窓以外は質素であるが元々は2本の煙突や棟飾等のある明治の洋風住宅であった。

⓭ 博物館倉庫 木造平家建 1884年

博物館の収蔵庫として建設され、事務所建設に伴い1900年に曳家された。当初は柿葺の切妻屋根だったが屋根裏増設の為に改造されたという。床は切石の基礎で高く持上げられている。

⓮ 博物館便所 木造平家建 1903年

元は北八条キャンパスの建物で1918年に移築。現役の便所で現在は男女別であるが当初は1室だった。簡素な建物ながら中央の換気塔や内部は斜め格子の天井に機能性が窺える。

⓯ 博物館鳥舎 木造平家建 1924年

「へ」の字型の招き屋根や米型のサッシュのガラス窓が印象的な鳥舎で、南は金網で囲われた孔雀の運動場として使用されていた。

第二農場

⓰ 事務所 木造平家建 1910年

農場移転時に古材を用いて新築した管理事務所。事務室、応接室、宿直室等からなり、放牧牛を監視するガラス窓等、機能性を重視した。第二農場で唯一のペンキ塗りの建築。屋根裏は書類等の物置として用いた。

⓱ 製乳所 煉瓦造平家建 1911年

牛乳をチーズ等に加工する施設。元は百年記念会館付近にあったが、第二農場移転時に新築した。3室の作業場と東の氷室と冷蔵室からなり、白い鉄扉から氷柱を入れ冷蔵室に繋いだダクトで冷却した。

⓲ 釜場 石造平家建 1910年

ジャガイモ等を煮込んで家畜の餌を作る施設。札幌軟石による石造建築であるのは火気を使用するため。窓廻り等の細部意匠に丁寧な施工の跡が窺える。中には2つの大釜を置ける竈がある。

⓳ 秤量場 木造平家建 1910年

明治初期のモデルバーン建設当初は斜路の入口にあったが、第二農場移転時に新築された。乾草を馬車に載せたまま米国製の装置で計量する施設で、間口に対して背が高い。

⓴ 産室追込所及耕馬舎（モデルバーン） 木造2階建 1877年

クラークの構想で現百年記念会館北側に建設した「模範家畜房」で構造はバルーンフレーム構法を基本とする。1910年に移築され外装や1階を変更した。乳牛の飼養方式を示した初の建築で、同一図面でE・ダンが建築した3つのモデルバーンを合わせ、日本酪農の飼養形態を定めたモデル建築である。

㉑ 収穫室及脱稃室 木造2階建 1911年

穀物庫の第二農場移転時に古材を用いて増築した。脱穀から籾摺りまでを行う。2階を収穫室とし穀物庫とコンベアで結ばれる。1912年には建物の西に石造の原動力室も設けられた。

㉒ 穀物庫（コーンバーン） 木造2階建 1877年

モデルバーンと共に米国のバルーンフレーム構法という簡易な架構技術で建設された旧玉蜀黍庫で、1911年に移築した。高床で湿気を防ぎ、簀の壁で通気する1階は機能的。無柱の2階に構造的な特徴がみられる。

㉓ 牧牛舎 木造平家建 1909年

第二農場移転時の拠点施設として最初に建設した。サイロや根菜室を併設した近代酪農技術を採用して建築された。軒が低い急勾配屋根が印象的。南北で通路や設備等の仕様が異なる。後背には1912年移設の石造サイロ（1910年）もある。

㉔ 種牛舎 木造2階建 1879年

1879年、モデルバーンの北に増築した部分。元は平家であるが1910年の第二農場移転時に分離し、干草等を貯蔵する2階を設けた。1階は獰猛な種牛を飼育する工夫がなされる。現存9棟で唯一の和小屋の建築。

埋蔵文化財（遺跡）

㉕ キャンパス内の遺跡と遺跡保存庭園

北大札幌キャンパスの地下には2つの地底世界（地下1～2mにある1000年前の擦文文化と、地下2～3mにある2000年前の続縄文文化の世界）がある。これら古代の集落はサクシュコトニ川の周辺に展開していた。キャンパスの北側にある遺跡保存庭園では、擦文集落の竪穴住居の跡が完全に埋まりきらず、現地表面に円い窪地になって残っていることから、現地で直接観察することができる。

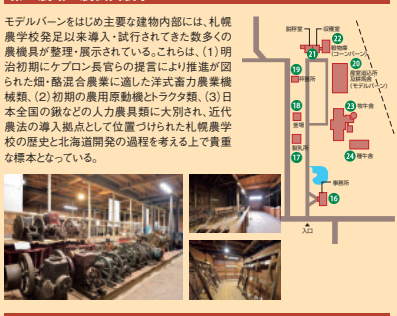
人類遺跡トレイルサイン

キャンパスで発掘調査した遺跡のうち代表的な地点21か所に野外解説版「人類遺跡トレイルサイン」を設置している。その他にも、キャンパスには自然や歴史的建造物のトレイルサインを設置している。

北海道大学歴史的資産 ガイドマップ & 見どころポイント

第二農場の農機具展示

モデルバーンをはじめ主要な建物内部には、札幌農学校発足以来導入・試行されてきた数多くの農機具が整理・展示されている。これらは、(1)明治初期にケプロン長官の提言により推進が図られた畑・酪混合農業に適した洋式畜力農業機械類、(2)初期の農用原動機とトラクタ類、(3)日本全国の鍬などの人力農具類に大別され、近代農法の導入拠点として位置づけられた札幌農学校の歴史と北海道開発の過程を考える上で貴重な標本となっている。



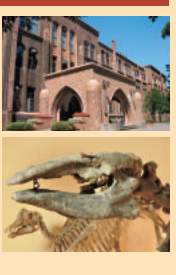
埋蔵文化財調査センター

北大札幌キャンパスは全域が遺跡であることから、キャンパス内で工事が行われる際には遺跡を保護するために発掘調査を実施する。調査により発見された古代の住居址や埋没した河道などの記録を行い、出土した土器や石器などの考古資料を修復し、常時公開展示している。また、発掘調査の現地見学会や発掘資料の速報展示、発掘調査地点に設置した野外解説版（人類遺跡トレイルサイン）を巡るトレイルウォークなども定期的に実施している。

■公開展示のご案内
【開設時間】
平日：9:00～16:30（祝日や年末・年始を除く月～金）
札幌市北区北11条西7丁目
http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/

総合博物館

全学的な学術標本の集約と学内外への情報発信のために、1999年春に設置された大学博物館。本学には、札幌農学校時代から収集・保存・研究されてきた400万点にものぼる学術標本・資料が蓄積されている。特に1万点以上にのぼるタイプ標本は貴重。学術標本の展示公開とともに、大学が行っている各学部の教育活動や最先端の研究についても様々な実物資料や映像で展示・紹介している。一般公開部分の面積はおよそ3,800㎡。「ミュージアムショップ」や「カフェ」を併設。



■ご利用の案内
【開館時間】
10:00～17:00
（ただし6月～10月の金曜日は10:00～21:00）
【休館日】
月曜日、12月28日～1月4日
（ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、連休明けの平日が休館日となります。）
*大学行事等で臨時開館・休館の場合があります。
【入館料】　無料

札幌市北区北10条西8丁目
TEL: 011-706-2658
FAX: 011-706-4029
museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp
https://www.museum.hokudai.ac.jp/

植物園　札幌市中央区北3条西8丁目

施設紹介

植物園は1886年に宮部金吾の設計によって設立された。1882年に建設された博物館本館を中心とする博物館部門とともに、北海道で最も歴史のある施設である。博物館建築群と植物園門衛所が1989年に国の重要文化財に認定されている。この他宮部金吾記念館・バチェラー記念館が国の有形文化財として登録されている。植物園では建築物だけでなく地形も保全されており、明治期の札幌の様子を体感できる。また、竪穴住居跡も公開部分で観察することができる。
https://www.hokudai.ac.jp/fsc/dg/

ご利用の案内

■夏期　4/29～11/3
【開園時間】入園は30分前まで
4/29～9/30　9:00～16:30
10/1～11/3　9:00～16:00
【休園日】
月曜日（祝日の場合は、翌日）
【入園料】
高校生以上　¥420（団体¥350）
小・中学生　¥300（団体¥240）
■冬期　11/4～4/28
温室のみ開館
【開園時間】入園は30分前まで
平日　10:00～15:30
土曜　10:00～12:30
【休園日】
日曜・祝日、12/28～1/4
【入園料】
小学生以上　¥120